



携帯発電機



# 取扱説明書 EF6000TE

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

331268

7CC-F8199-J0

# おねがい

ヤマハ商品をお買上げいただき、誠にありがとうございます。  
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。  
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用时には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

\*本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠安全に係る注意情報を意味しています。

## ⚠警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

## ⚠注意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

## 要 点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- \* 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- \* 保証書はよくお読みいただき裏面のお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
- \* 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。

# 目次

おねがい.....表紙裏 (表2)	● エンジンの停止 .....P22
製造番号.....P1	点検 .....P23
お客様ご相談窓口のご案内.....P2	● 始業点検.....P23
安全にお使いいただくために.....P3	● 定期点検.....P23
● ⚠ 警告.....P3	始業点検.....P24
● ⚠ 注意.....P4	● 燃料 (自動車用レギュラー
● 環境への配慮.....P4	ガソリン) の点検 .....P24
重要ラベル.....P5	● エンジンオイルの点検.....P24
● ⚠ 警告ラベル.....P5	● その他の点検.....P24
● ⚠ 注意ラベル.....P5	定期点検表.....P25
● その他ラベル.....P6	定期運転・定期交換.....P27
各部の名称.....P7	● 定期運転.....P27
各部の取り扱い.....P9	● 定期交換.....P27
● オイル警告装置.....P9	定期点検・整備ご相談窓口のご案内...P28
● エンジンスイッチ.....P10	やさしい点検・調整.....P29
● 電圧計.....P10	● エンジンオイルの交換.....P29~
● 交流スイッチ.....P11	● スパークプラグの点検と清掃...P31~
● エコノミーアイドルスイッチ.....P11	● 燃料タンクストレーナの清掃...P32~
● 単相・三相切替スイッチ.....P12	● マフラーワイヤネットの清掃.....P33
● オイル警告ランプ.....P12	● エアクリーナエレメントの
● 燃料コック.....P12	清掃.....P34~
● 交流コンセント.....P12	● フューエルストレーナの清掃.....P36
● 電圧調整ノブ.....P13	● バッテリー液の点検.....P37
● アース端子.....P13	故障診断.....P39
● リコイルスタータハンドル.....P13	● エンジンが始動しない.....P39
● 携帯工具.....P13	● 電気が出ない.....P39
給油.....P14	運搬.....P41~
● 燃料 (自動車用レギュラー	保管・格納.....P43
ガソリン) の給油.....P14	● 保管.....P43~
● エンジンオイルの給油.....P15	● 格納.....P45
正しい運転操作.....P16	仕様諸元.....P47
● エンジンの始動.....P16~	バッテリー・バッテリートレイの
● 単相・三相切替スイッチの	取り付け要領.....P49
使い方.....P18	交流電源回路図.....P50
● 交流電源の取り出し方.....P19~	索引.....巻末
● 交流電源の使用可能範囲.....P21	

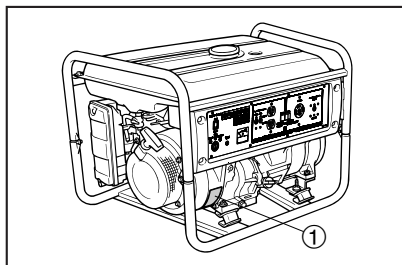
# 製造番号

## ● 製造番号

商品名、製造番号等は問い合わせや部品を注文するときのために記入してください。

商品名、製造番号は右図の製造番号ラベル①をご参照ください。

商品名、製造番号は他の資料にも記録しておいてください。



商品名

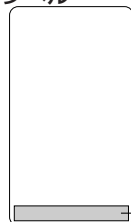
製造番号

購入年月日

年	月	日
---	---	---

電話
----

① 製造番号ラベル



製造番号

## お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

### ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

 **0120-090-819**

オープン時間 月曜～金曜

(祝日、弊社所定の休日等を除く)

9:00～12:00 13:00～17:00

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

- ①モデル名
- ②製造番号
- ③ご購入年月日
- ④ご購入先

ヤマハ発電機をよりご理解いただくためにホームページもご参照ください。

ヤマハインターネットホームページ

<http://www.ympc.co.jp/generator>

## 安全にお使いいただくために 必ずお守りください。

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

### **警告** (行為を禁止する警告文)

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中や使用直後はマフラー部分が熱いのでマフラーやマフラー周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品进行操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行なわないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

### **警告** (行為を指示する警告文)

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から1メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹼と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

## **⚠ 注意** (行為を禁止する注意文)

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー一部が十分に冷えてから行なってください。

## **⚠ 注意** (行為を指示する注意文)

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、ただちにエンジンを停止してヤマハ発電機販売店またはサービス店の点検を受けてください。

## **環境への配慮**

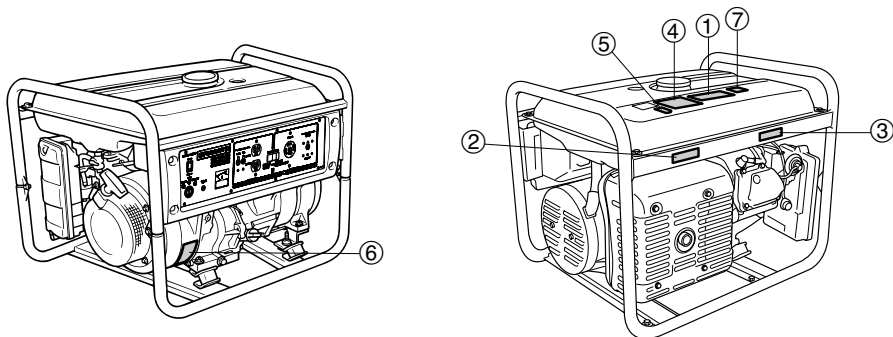
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

# 重要ラベル

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

## 要 点

ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談して、ただちに新しいものと交換してください。



## ▲ 警 告 ラベル

<b>▲ 警 告</b>	
 <b>火気 厳禁</b>	火災や爆発のおそれあり ・給油中はエンジン停止のこと。 ・ガソリン給油中に火気を近づけないこと。 ・こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 ・燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。 ・可燃物のそばで使用しないこと。 ・建物・設備に排気を向けないこと。
 <b>排気ガス中毒のおそれあり</b>	排気ガス中毒のおそれあり ・屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。 ・人・建物・設備に排気を向けないこと。
 感電や火災のおそれあり ・電力会社からの電気配線に接続しないこと。	 感電のおそれあり ・雨や雪の中で使用しないこと。 ・コンセントに濡れた手でさわらないこと。
<b>▲ 注 意</b>	
	ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。 7TA-24162-01

## ▲ 注 意 ラベル

<b>▲ 警 告</b>	やけどのおそれあり、マフラーにさわらないこと。 高温注意 7RA-28176-00
--------------	--

<b>▲ 注 意</b>	感電のおそれあり、スパークプラグにさわらないこと。 高電圧注意 7XD-F 415A-00
--------------	--



## その他ラベル

### ④取扱要領

### 取扱要領

**始動**

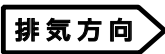
1. オイルとガソリンを点検し、燃料コックを開く。
2. <電動スタート>  
エンジンスイッチを“START”の位置にし、エンジンを始動させ、“ON”の位置に戻す。
- <手動スタート>  
エンジンスイッチを“ON”に合わせ、スターターロープを勢いよく引き、エンジンを始動させる。

**停止**

1. エンジンスイッチを“STOP”にする。
2. 燃料コックを閉じる。

7CC-F4156-00

### ⑤排気方向



7XD-F415E-00

### ⑥製造番号ラベル (P1 参照)

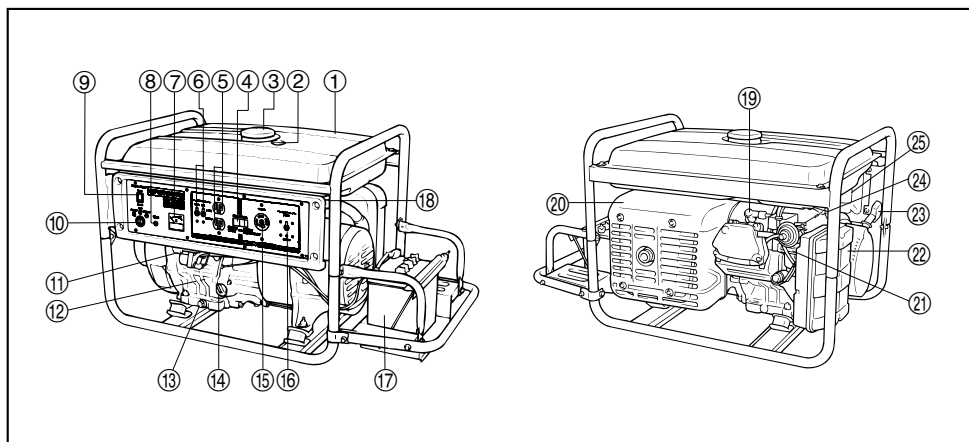
### ⑦「LEMA」ラベル

(「排出ガス」自主規制適合マーク)

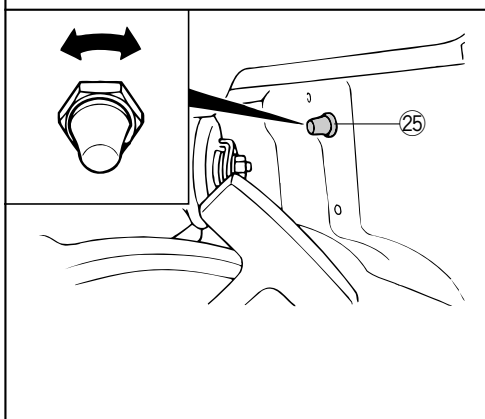
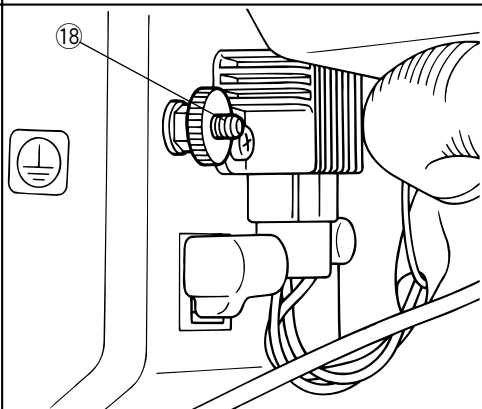
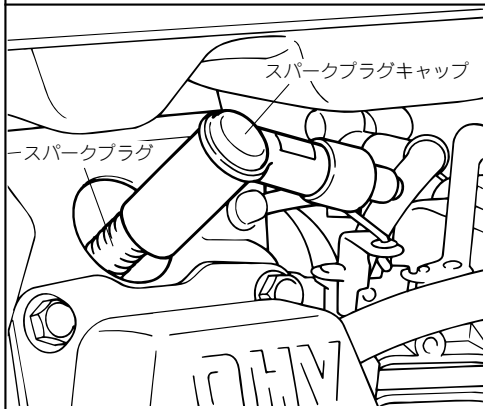
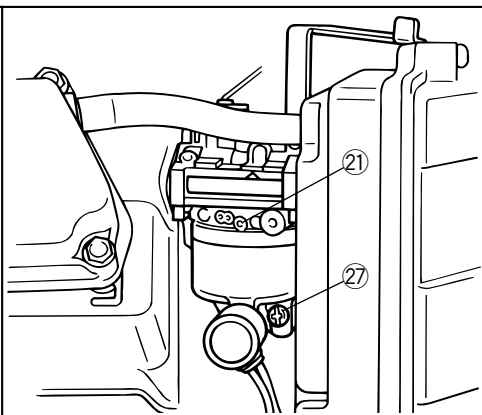
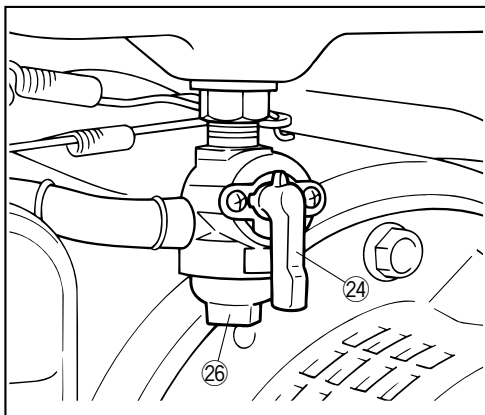


7CA-F111F-00

# 各部の名称



- |                        |                         |                          |
|------------------------|-------------------------|--------------------------|
| ①燃料タンク                 | ⑩エンジンスイッチ               | ⑲スパークプラグ/<br>スパークプラグキャップ |
| ②燃料残量計                 | ⑪セルモータ                  | ⑳マフラー                    |
| ③燃料タンクキャップ             | ⑫オイル警告装置                | ㉑キャブレタ                   |
| ④単相・三相切替スイッチ           | ⑬オイルドレンボルト              | ㉒エアクリーナ                  |
| ⑤交流コンセント<br>(交流単相100V) | ⑭オイルプラグキャップ<br>(オイル注入口) | ㉓リコイルスタータハンドル            |
| ⑥交流スイッチ<br>(交流単相100V)  | ⑮交流コンセント<br>(交流三相200V)  | ㉔燃料コック                   |
| ⑦電圧計 (交流三相200V)        | ⑯交流スイッチ<br>(交流三相200V)   | ㉕電圧調整ノブ                  |
| ⑧オイル警告ランプ (赤色)         | ⑰バッテリー                  | ㉖ストレーナカップ                |
| ⑨エコノミーアイドル<br>スイッチ     | ⑱アース端子                  | ㉗ドレンスクリュ                 |

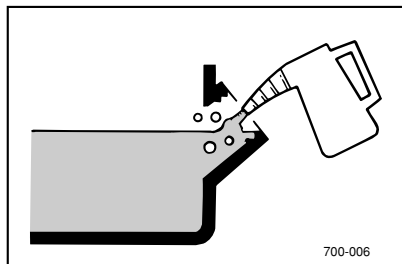


## 各部の取り扱い

### ● オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しヤマハ4サイクルエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



### ▲ 注意

- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。  
エンジン不調になるおそれがあります。

### 要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

## ● エンジンスイッチ

点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行います。

STOP ガソリンは流れません。

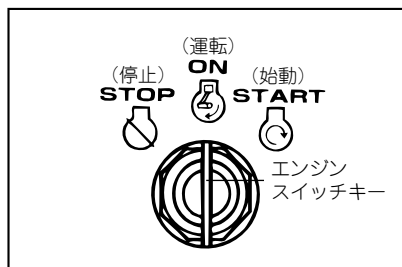
(停止) エンジン停止および保管時の位置です。

ON エンジン運転時の位置です。

(運転)

START セルモータが回転し、エンジンが始動

(始動) します。



## ▲ 注意

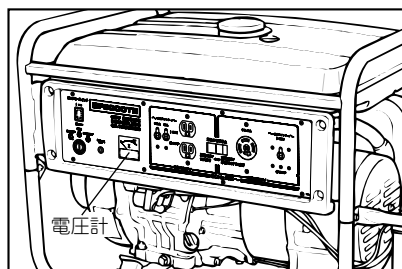
- セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がり  
の原因となります。
- 使用しない時は、エンジンスイッチをSTOP  
(停止) にしキーを抜いてください。

## 要 点

START (始動) の位置でエンジンがかかったらエンジンスイッチキーをON (運転) の位置に戻してください。

## ● 電圧計

交流 (AC) 三相200Vの発生電圧を指示します。



# 各部の取り扱い（つづき）

## ● 交流スイッチ

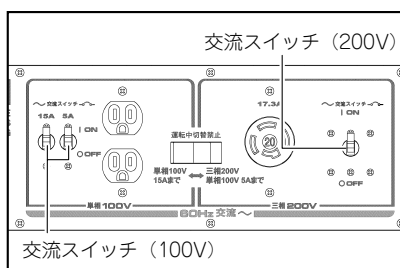
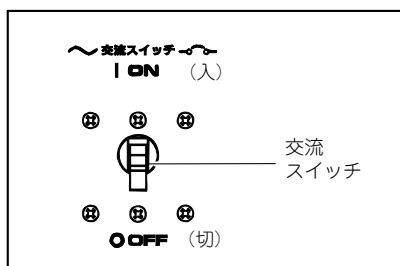
- ON（入）—交流が取り出せます。
- OFF（切）—交流が取り出せません。

### ▲ 注 意

電気機器を使用中に交流スイッチがOFF（切）になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでもOFF（切）になる場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談してください。

### 要 点

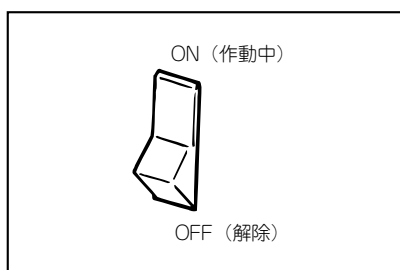
電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に交流スイッチはOFF（切）になります。再度使用する場合は交流スイッチをON（入）にしてください。



## ● エコノミーアイドルスイッチ

ON エコノミーアイドル装置が作動します（作動中）。電気機器を運転すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、運転しない時は自動的に低速回転になります。

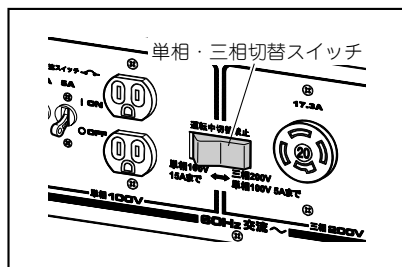
OFF エコノミーアイドル装置が解除されます（解除）。電気機器の使用の有無にかかわらずエンジン回転は定格回転で運転します。



## ● 単相・三相切替スイッチ

単相 交流 (AC) 単相100V15Aを取り出すことができます。

三相／単相 交流 (AC) 三相200Vと単相100V5Aまで取り出すことができます。



## ● オイル警告ランプ (赤色)

オイル警告ランプ①は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点滅し自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ (赤色) ①が点滅し、エンジンは始動しません。

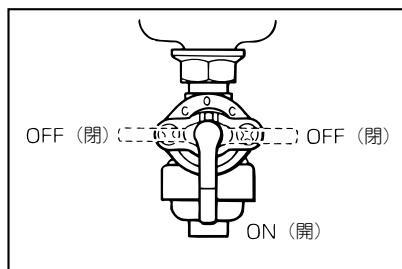


## ● 燃料コック

燃料の流れを制御します。

ON (開) — 燃料は流れます。  
始動および運転時のレバーの位置です。

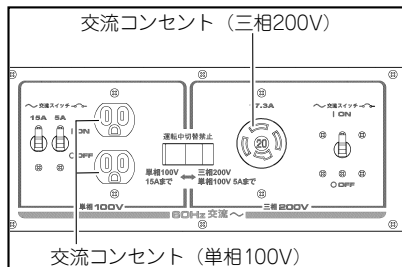
OFF (閉) — 燃料は流れません。  
停止および保管時のレバーの位置です。



## ● 交流コンセント

交流 (AC) の単相100V／三相200Vを取り出すことができます。

取り出し方は、「正しい運転操作」の「●単相・三相切替スイッチの使い方」「●交流電源の取り出し方」を参照してください。



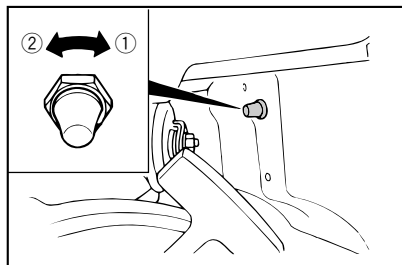
## 各部の取り扱い（つづき）

### ● 電圧調整ノブ

交流（AC）三相用200Vの出力電圧を160Vから220Vの範囲で変化させることができます。

#### 要 点

延長コードの使用などにより電圧降下が見られる場合は電圧の調節をしてください。

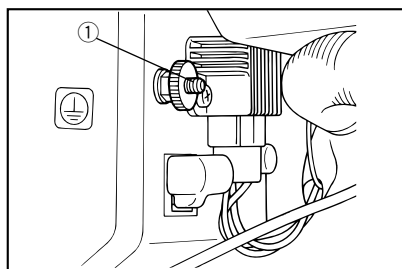


①出力電圧が上昇します。

②出力電圧が下降します。

### ● アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。  
アース端子①から大地にアースしてください。  
使用器具をアースした時は、発電機も必ずアースしてください。



### ● リコイルスタータハンドル

エンジンを始動させる時に使用します。

### ● 携帯工具

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。



## 給油

### ● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油

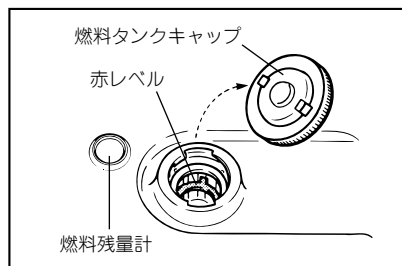
燃料タンクキャップを外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベルまで給油します。燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計により確認できます。

燃料タンク容量

21.5L（赤レベルまで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン



### ▲ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹼と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。

### ▲ 注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれた時は、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。
- 燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。

# 給油（つづき）

## 要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

## ● エンジンオイルの給油

購入後は、オイルプラグキャップ①を外し、ヤマハ4サイクルエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

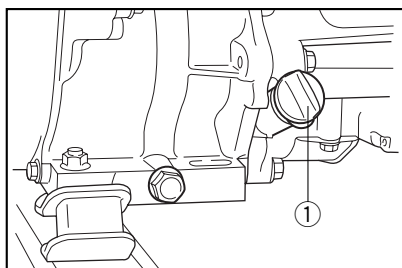
1.1L

使用オイル

ヤマハ4サイクルエンジンオイル

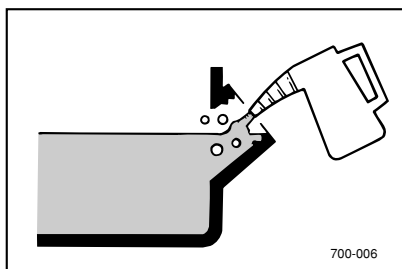
API分類SE級以上

SAE 10W-30



## ▲ 注 意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので給油してください。
- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。  
エンジン不調になるおそれがあります。



## 要 点

- 給油の仕方は「エンジンオイルの交換」(P29)も参照してください。

## 要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

# 正しい運転操作

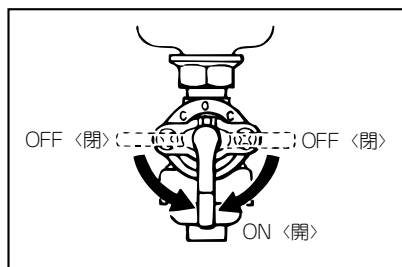
## ● エンジンの始動

### ▲ 警告

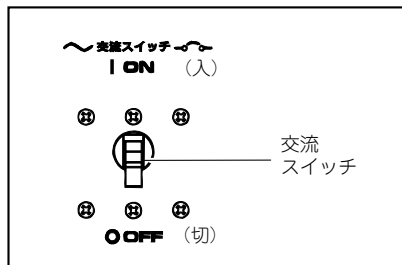
- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。
- エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

2. 燃料コックをON（開）にします。

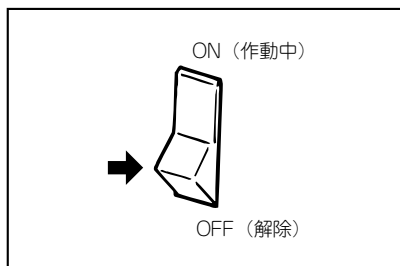


3. 交流スイッチをOFF（切）にします。



## 正しい運転操作（つづき）

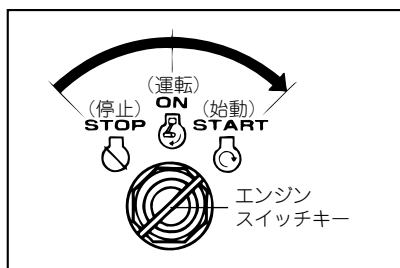
4. エコノミーアイドルスイッチをOFF（解除）にします。



5. エンジンスイッチをSTART（始動）の位置にして、エンジンを始動させます。

### ▲注意

- セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がりの原因となります。
- 使用しない時は、メインスイッチをSTOP（停止）にしキーを抜いてください。



### 要 点

- START（始動）の位置でエンジンがかかったらエンジンスイッチキーをON（運転）の位置に戻してください。

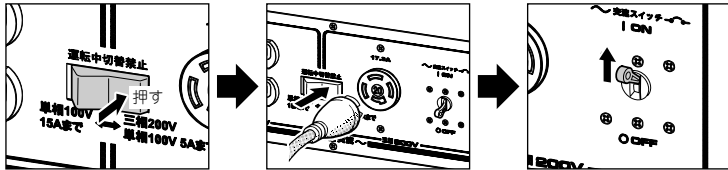
6. しばらく暖機運転します。

## ● 単相・三相切替スイッチの使い方

単相・三相切替スイッチを切り替えることにより、単相または三相の交流（AC）を取り出すことができます。

単相・三相切替スイッチを使う時は必ず全ての交流スイッチをOFFにしてください。

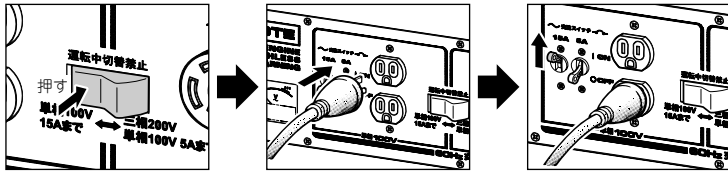
### 三相を使う場合



三相コンセントから交流（AC）が取り出せます。

また同時に単相コンセントからも5A以下の交流（AC）が取り出せます。

### 単相を使う場合



単相コンセントから交流が取り出せます。

# 正しい運転操作（つづき）

## ● 交流電源の取り出し方

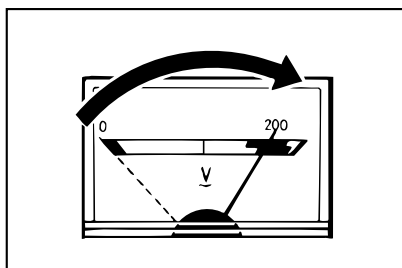
### ▲ 注意

- 発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。
- 接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。

1. エンジンを始動させます。

### 要 点

スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。



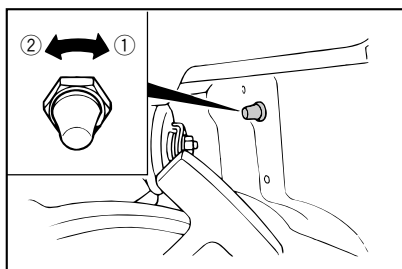
2. 電圧計の針が200Vの黒枠内にあるか確認します。

### 要 点

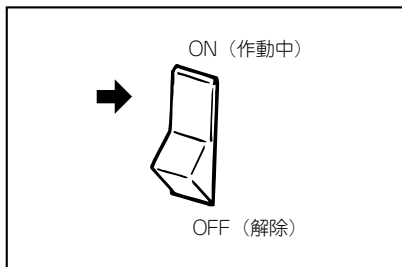
延長コードの使用などにより交流（AC）三相200Vコンセントから取り出せる電気が200V以下になる場合があります。

160Vから220Vまでの範囲で電圧調整ノブを調整してください。

- ①出力電圧が上昇します。
- ②出力電圧が下降します。



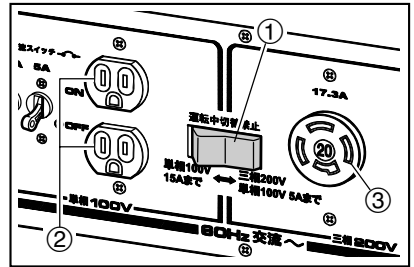
3. エコノミーアイドルスイッチをON（作動中）にします。



4. 単相・三相切替スイッチ①を使いたいコンセントに応じて切り替えます。
5. 電気器具のプラグを交流コンセント②もしくは③に差し込みます。

## 要 点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。



交流コンセント②には単相100Vで合計消費電流15A以下の電気器具のプラグを差し込みます。

交流コンセント③には三相200Vで消費電流14.4A以下（50Hz仕様）もしくは17.3A以下（60Hz仕様）の電気器具のプラグを差し込みます。

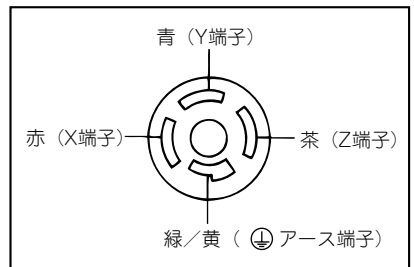
（参考）

三相200V用プラグ

- 松下電工製 WF8420K
- 明工社製 MH2584

## 要 点

- 三相200Vの3線式はX.Y.Z端子と4線式はX.Y.Z.⊕（アース）と接続してください。
- 交流電源回路図はP50を参照してください。



6. 交流スイッチをON（入）にします。

# 正しい運転操作（つづき）

## ● 交流電源の使用可能範囲

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取だし可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上で使用ください。

電気器具	取り出し可能範囲				備考
	50Hz		60Hz		
	単相	三相	単相	三相	
照明・電熱器 ラジオ・テレビ ステレオなど	100V 1,500W まで	200V 5,000W まで	100V 1,500W まで	200V 6,000W まで	力率= 1
電動工具類	100V 1,200W 程度まで	200V 4,000W (0.8計算) 程度まで	100V 1,200W 程度まで	200V 4,800W 程度まで	力率= 0.8~0.95
汎用モータ類	100V 750W 程度まで	200V 2,500W (0.5計算) 程度まで	100V 750W 程度まで	200V 3,000W 程度まで	力率= 0.4~0.75

## ▲ 注 意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談してください。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえで使用ください。
- 電動工具類・汎用モータ類の一部には取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。

## 要 点

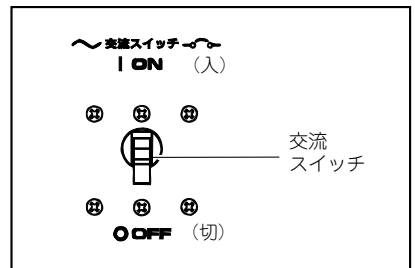
取り出し可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流スイッチがOFF（切）になります。



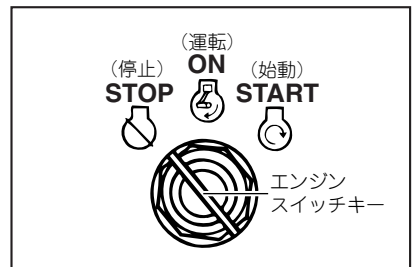
● エンジンの停止

1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

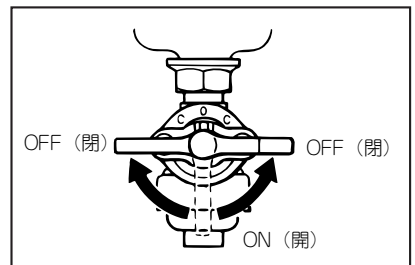
3. 交流スイッチをOFF（切）にします。



4. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）にします。



5. 燃料コックをOFF（閉）にします。



# 点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

## ▲ 警告

- エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。  
火傷にご注意ください。
- 排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。
- 重大な事故・故障の原因になりますので始業点検・定期点検を必ず実施してください。
- 異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはヤマハ発電機販売店またはサービス店で必ず整備を行なってください。

### ● 始業点検

お客様が発電機をご使用するたびに点検を行なってください。

点検箇所に異常がある場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備をお受けください。

### ● 定期点検

お客様のお申しつけにより、ヤマハ発電機販売店またはサービス店が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

# 始業点検

## ● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検

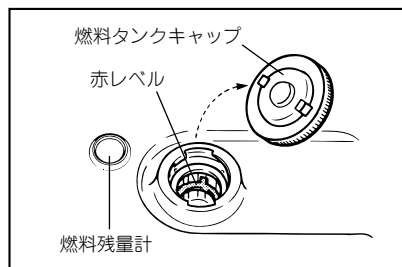
燃料タンクキャップを外して、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。

燃料タンク容量

21.5L（赤レベルまで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン



## 要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

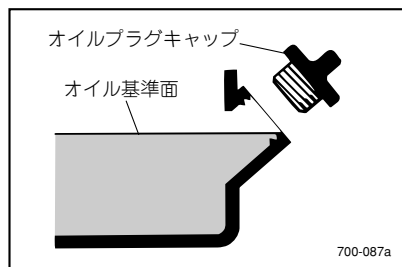
## ● エンジンオイルの点検

オイルプラグキャップを外してエンジンオイルがオイル基準面まであるか点検します。

エンジンオイルが基準面より少ない場合は、ヤマハ4サイクルエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

## ▲ 注意

- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。  
エンジン不調になるおそれがあります。



## 要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。

## ● その他の点検

P25を参照してください。

# 定期点検表

対象部品	点検項目	始業 点検	6ヶ月毎又は 100時間運転毎	12ヶ月毎又は 300時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○ (*1)	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
バッテリー	液の量	○		
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアクリーナ	点検、清掃		○ (*2)	
マフラーネットワイヤ	清掃、損傷の確認		○	
スパークアレスタ	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
フューエルストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーヘッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
エンジン回転	調整			★
スタータロープ	損傷			★
本体各部	各部の緩み確認			★
前日の作業で異常が認められた箇所		○		

\*1 ……初回は1ヶ月目 又は 20時間運転時に実施してください。

\*2 ……ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めてください。

★ ……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へお申し付けください。



## 定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使うことが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行なって緊急時に備えてください。

- **定期運転**

1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

燃料をいつも満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

### **警告**

---

- 本書での指示なき作業等を行なう時にも、必ずエンジンを止めてください。
  - お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。
- 

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

## 定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、ヤマハ発動機販売店またはサービス店にご遠慮無くご用命ください。

### 【ご注意】

1. 整備はヤマハ発動機販売店またはサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

## やさしい点検・調整

### ● エンジンオイルの交換

#### ▲ 警告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

1. エンジンを始動し2～3分暖機運転します。
2. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。

#### ▲ 警告

エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

#### 要 点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

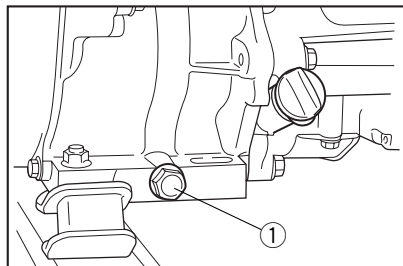
#### 要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

3. ドレンボルト①を外します。
4. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

#### 要 点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換します。



5. ドレンボルトを締め付けます。



6. オイルプラグキャップ①を外して、新しいヤマハ4サイクルエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

1.1L

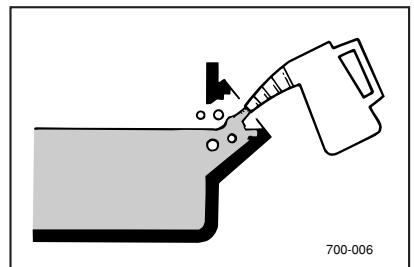
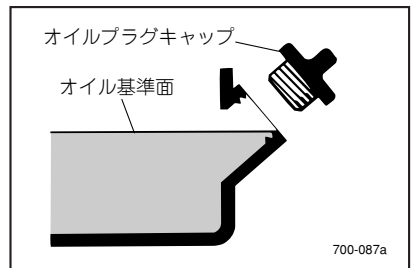
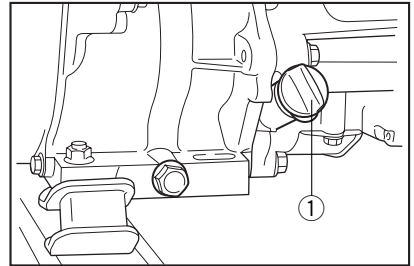
使用オイル

ヤマハ4サイクルエンジンオイル

API分類SE級以上

SAE 10W-30

7. オイルプラグキャップを締め付けます。



## やさしい点検・調整（つづき）

### ● スパークプラグの点検と清掃

スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。  
スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的  
に外して点検を行なう必要があります。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. スパークプラグキャップを取り外し、スパークプラグを外します。

### ▲ 警告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。

碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。



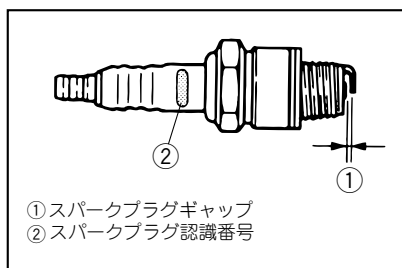
3. スパークプラグの焼け具合を見ます。  
通常はキツネ色に焼けますが黒くくすびついたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検します。
4. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
5. 電極隙間を点検します。

スパークプラグ NGK BPR4ES

スパークプラグ 0.7~0.8mm

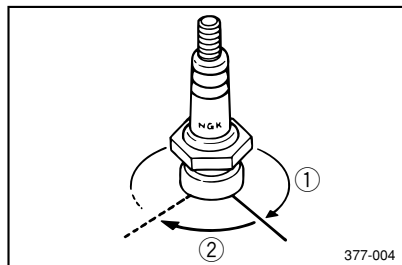
ギャップ

6. スパークプラグを締め付けます。



## 要 点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って1/4～1/2回転②更に締め込んでください。  
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値で締めてください。



7. スパークプラグキャップを取り付けます。

## ● 燃料タンクストレーナの清掃

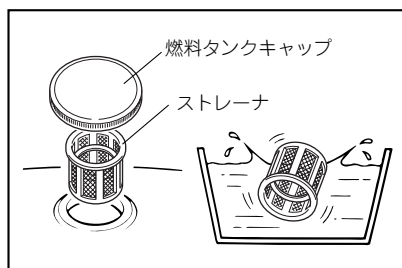
### 要 点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

### 要 点

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

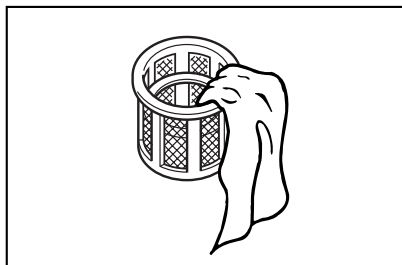


## やさしい点検・調整（つづき）

4. ストレーナを拭いて挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

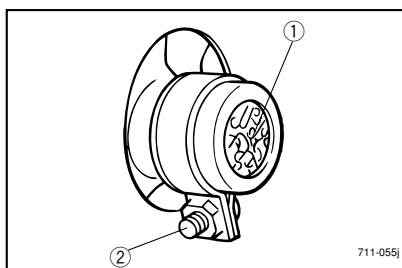
### ▲ 警告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

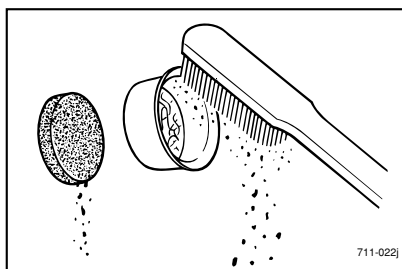


### ● マフラーワイヤネットの清掃

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. ボルト②をゆるめてマフラーキャップとマフラーワイヤネット①を外します。



3. ワイヤブラシを利用してマフラーキャップとマフラーワイヤネットの汚れを取り除きます。
4. マフラーワイヤネットとマフラーキャップを取り付けます。

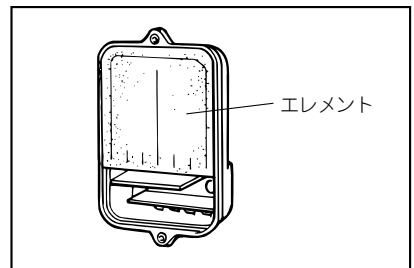
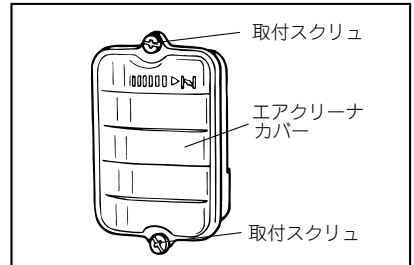


## ● エアクリーナエレメントの清掃

### 要 点

ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. 取付スクリュを取り外します。
3. エアクリーナカバーを外します。
4. エレメントを外します。



5. エレメントをきれいな白灯油で洗淨します。

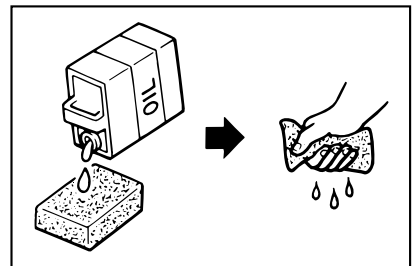
### ▲ 警 告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

6. エレメントをエンジンオイル等にひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

### ▲ 注 意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

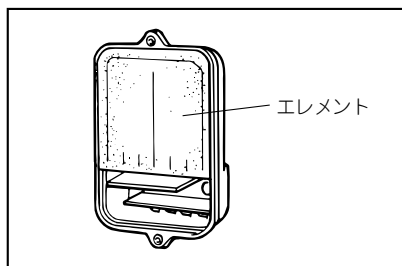


## やさしい点検・調整（つづき）

7. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。

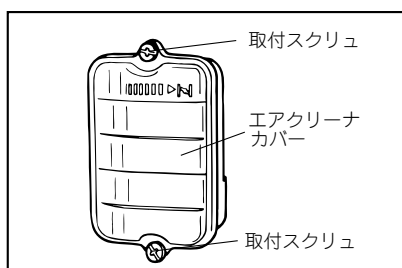
### ▲注意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



8. エアクリーナカバーを確実に押し込んで取り付けます。

9. 取付スクリュを締め付けます。

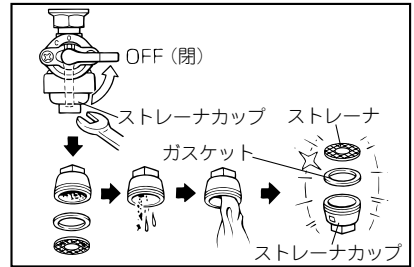


### ● フューエルストレーナの清掃

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. 燃料コックをOFF（閉）にします。
3. ストレーナカップを取り外します。

#### 要 点

ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。



4. ガスケット、ストレーナを取り外します。
5. ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

#### ▲ 警 告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

6. ガスケットを点検します。

#### 要 点

ガスケットが破損している場合は新品と交換します。

7. ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを取り付けます。
8. 取付後は燃料漏れがないことを確認します。

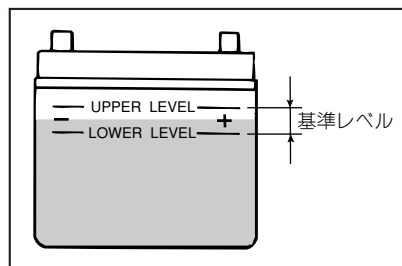
#### ▲ 警 告

取り付けが悪いと燃料もれをおこし、火災や爆発の原因になる恐れがあります。

## やさしい点検・調整（つづき）

### ● バッテリー液の点検

1. バッテリーの液面が基準レベル内にあるか確認します。
2. 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水を補給します。
3. キャップの排気孔につまりがないか確認します。



比重	1.28
----	------

### ▲ 警告

- バッテリーの取り扱いにご注意ください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。（特に保守・点検・充電・ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。）
  - 火気厳禁……ショートやスパーク、たばこ等の火気を近づけないでください。＜爆発＞
  - 通風のよい所で……閉めきった場所での使用や充電は危険です。＜爆発＞
  - バッテリー液は希硫酸……皮膚・目・衣服につくと危険です。＜火傷・失明等＞
- 規定以外のバッテリーは使用しないでください。
- 応急手当
  - 万一、バッテリー液が皮膚・衣服についた時は多量の水で洗い流してください。
  - 目に入った時はただちに多量の水で15分以上洗い医師の治療を受けてください。

### 要 点

定期的に比重を測定しバッテリーの状態を確認してください。





# 故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じた時はヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安な時は、できるだけそのままの状態ヤマハ発電機販売店またはサービス店に連絡し専門技術者にご相談ください。

## ● エンジンが始動しない

### 1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

- 燃料タンクが空になっている.....燃料を補給する。
- 燃料パイプが目詰まりしている.....燃料パイプを清掃する。  
またはヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
- 燃料コックに異物が混入している.....燃料コックを清掃する。  
またはヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
- キャブレタが目詰まりしている.....キャブレタを清掃する。  
またはヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

### 2. 電気系統（火花不足）

- スパークプラグが汚れている.....スパークプラグを乾燥させて清掃する。
- スパークプラグにカーボンが付着している...カーボンを除去する。
- 点火系統が不良.....ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
- セルモータが回転しにくい.....バッテリーの容量不足、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

### 3. 圧縮系統（圧縮不足、洩れ）.....ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

### 4. 潤滑系統（オイル不足）

- リコイルスタータハンドルを引くかもしくはセルスタータを作動させるとオイル警告ランプが点滅する.....エンジンオイルを補給する。

## ● 電気が出ない

- 交流スイッチがOFF（切）になっている.....交流スイッチをON（入）にする。



# 運搬

発電機を自動車・トラック等の車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

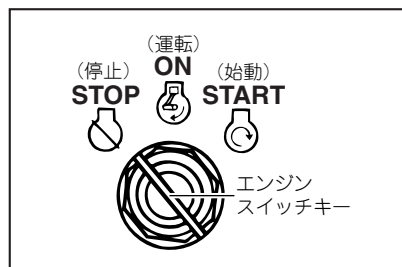
## ▲警告

- 振動、衝撃等で燃料タンクの燃料（ガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料（ガソリン）が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランク等に積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれがありますので、予備の燃料（ガソリン）は鉄製の携帯タンクに保管してください。
- 火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。

## ▲注意

発電機の上に重い物を置かないでください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。



2. 燃料タンク内の燃料（ガソリン）を抜きます。

**警告**

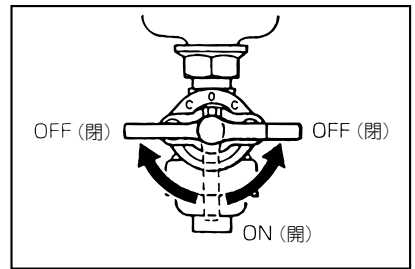
燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

3. 燃料コックをOFF（閉）にします。

4. 発電機をロープ等で確実に固定します。

**要点**

発電機が移動、転倒、落下、破損等しないような位置に積載してください。



# 保管・格納

## ● 保管

使用後、または定期運転後次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～8の作業を行なって保管し、次に使用する時に備えてください。

## ▲ 注意

燃料が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

## 要 点

● 排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンを停止します。
2. 燃料コックをOFF（閉）にし、燃料コックのストレーナカップ①を取り外します。
3. 容器を燃料コックの下に置き、燃料コックレバーをOFF（閉）からON（開）にして完全に燃料タンク内の燃料を抜きます。

## ▲ 警告

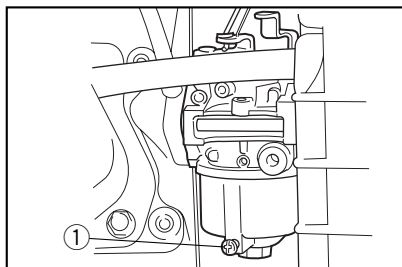
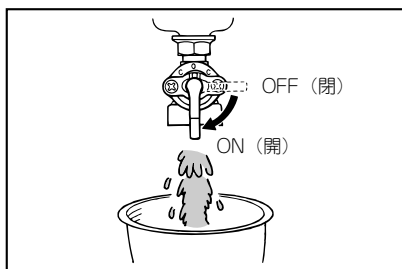
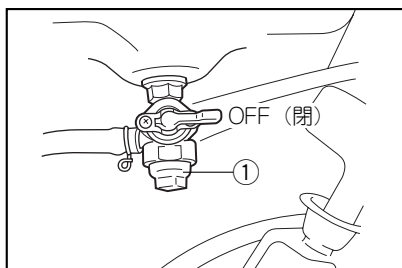
こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

4. キャブレタのドレンスクリュー①をドライバ④で弛めて燃料を抜きます。

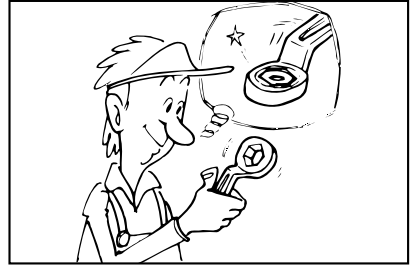
## ▲ 警告

こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

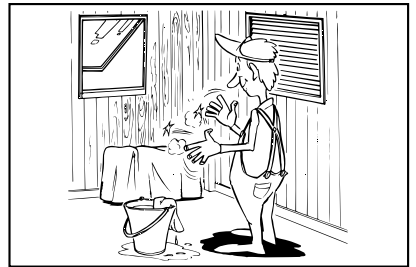
5. ドレンスクリューを締め付けます。
6. ストレーナカップを取り付けます。



7. 各部のゆるみを確認し、ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。



8. 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

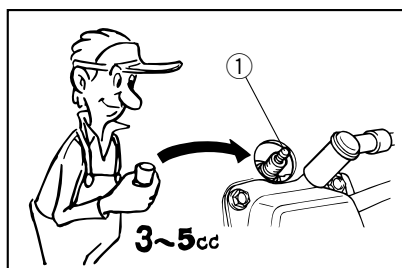


# 保管・格納（つづき）

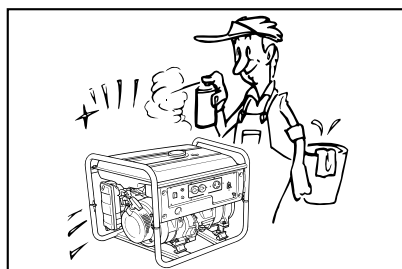
## ● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行なって格納し、次に使用する時に備えてください。

1. 保管項目の1～7の作業を行ないます。
2. スパークプラグ①をはずしプラグ孔よりエンジンオイルを3～5cc給油します。
3. スターターロープを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
4. スターターロープを引き重くなった状態（圧縮状態）にします。



5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。







# 仕様諸元

名 称		EF6000TE		
形式		2極回転界磁形3相交流発電機		
電圧調整方式		A.V.R式		
励磁方式		自己励磁式		
力率		1.0		
発 電 機	交流	定格周波数	50Hz	60Hz
		定格出力 (単相100V)	1.5kVA	1.5kVA
		定格電圧	100V	
		定格電流 (単相100V)	15A	15A
		定格出力 (三相200V)	5.0kVA	6.0kVA
		定格電圧	200V	
		定格電流 (三相200V)	14.4A	17.3A
装 備	駆動方式		エンジン直結	
	交流コンセント		3 (単相2、三相1)	
	交流過電流保護装置		N.F.B	
	直流コンセント		無	
	直流過電流保護装置		無	
エ ン ジ ン	エンジン種類		空冷4サイクルガソリンエンジン	
	調速機形式		遠心重錘式	
	冷却方式		強制空冷	
	点火方式		T.C.I. 点火	
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES	
	プラグキャップ		0.7~0.8mm	
	エアクリーナ方式		半湿式 (ウレタンフォーム)	
	総排気量		357mℓ (357cm <sup>3</sup> )	
	使用燃料		無鉛ガソリン (自動車用レギュラーガソリン)	
	潤滑方式		強制飛沫式	
	使用潤滑油		API分類SE級以上エンジンオイル (SAE 10W-30)	
	使用潤滑油容量		1,100mℓ	
始動方式		リコイル式+セルモータ式		
燃料タンク容量 (赤レベル)		21.5ℓ		
定格連続運転時間 (赤レベル)		約8.0時間	約6.3時間	
乾燥重量		90kg		
全長×全幅×全高		894×520×527mm		
騒音レベル (7m)		72dB(A)	74dB(A)	
バッテリーメーカー/型式		GS-26A19R または GS-34A19R		

\* この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

\* 騒音レベルは7m・4方向測定の前平均値です。



# バッテリー・バッテリートレイの取り付け要領

## ● バッテリー・バッテリートレイの取り付け要領

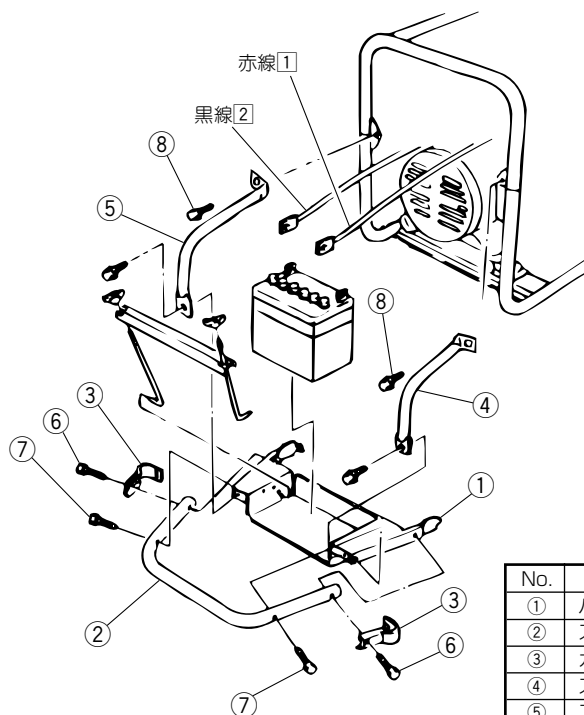
### ▲ 警告

規定以外のバッテリーは使用しないでください。

2. バッテリーをバッテリートレイに載せます。
3. 赤線①をバッテリー⊕端子に接続します。
4. 黒線②をバッテリー⊖端子に接続します。

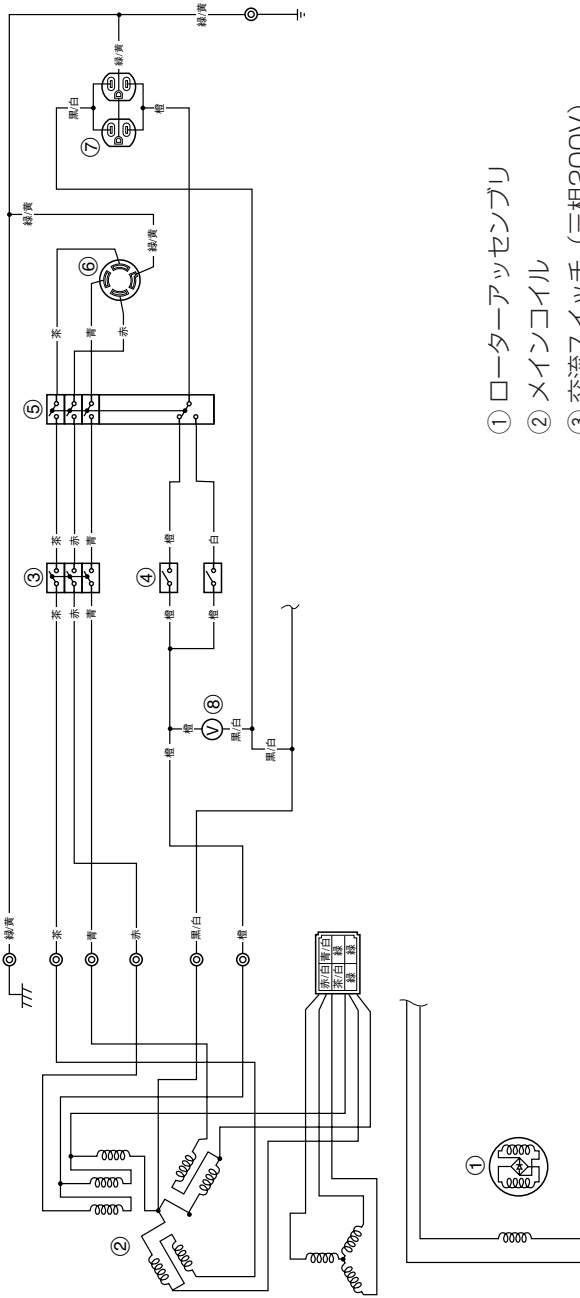
1. バッテリートレイを発電機本体に取り付けます。

(①～⑧の部品を取り付けます。)



No.	部品名称	個数
①	バッテリーシート	1
②	ステー5	1
③	カバーサイド1	2
④	ステー6	1
⑤	ステー7	1
⑥	ボルトフランジ 35mm	2
⑦	ボルトフランジ 30mm	2
⑧	ボルトフランジ 12mm	4

# 交流電源回路図



- ① ローターアセンブリ
- ② メインコイル
- ③ 交流スイッチ (三相200V)
- ④ 交流スイッチ (单相100V)
- ⑤ 单相・三相切替スイッチ
- ⑥ 交流コンセント (三相200V)
- ⑦ 交流コンセント (单相100V)
- ⑧ 電圧計



# 索引

## あ行

アース端子	7, 13
安全にお使いいただくために	3
運搬	41
エアクリーナエレメントの清掃	34
エアクリーナ	7
エコノミーアイドルスイッチ	7, 11
エンジンオイルの給油	15
エンジンオイルの交換	29
エンジンオイルの点検	24
エンジンが始動しない	39
エンジンスイッチ	7, 10
エンジンの始動	16
エンジンの停止	22
オイル警告装置	7, 9
オイル警告ランプ	7, 12
オイルプラグキャップ	7
オイルドレンボルト	7
お客様ご相談窓口のご案内	2
おねがい	表紙裏

## か行

格納	45
各部の取り扱い	9
各部の名称	7
環境への配慮	4
キャブレタ	7
給油	14
警告	3
警告シンボルマーク	表紙裏
警告ラベル	5
携帯工具	13
交流コンセント	7, 12
交流スイッチ	7, 11
交流電源回路図	50
交流電源の使用可能範囲	21
交流電源の取り出し方	19
故障診断	39

## さ行

始業点検	23, 24
重要ラベル	5
仕様諸元	47
ストレーナカップ	7
スパークプラグ	7, 8
スパークプラグキャップ	7, 8
スパークプラグの点検と清掃	31
製造番号	1
製造番号ラベル	1
セルモータ	7
その他の点検	24

その他ラベル	6
--------	---

## た行

正しい運転操作	16
単相・三相切替スイッチ	7, 12
単相・三相切替スイッチの使い方	18
注意	4
注意シンボルマーク	表紙裏
注意ラベル	5
定期運転	27
定期交換	27
定期点検	23
定期点検・整備ご相談窓口のご案内	28
定期点検表	25
点検	23
電圧調整ノブ	7, 13
電圧計	7, 10
電気が出ない	39
ドレンスクリュ	7

## な行

燃料残量計	7
燃料コック	7, 12
燃料タンク	7
燃料タンクキャップ	7
燃料タンクストレーナの清掃	32
燃料（自動車用レギュラー ガンリン）の給油	14
燃料（自動車用レギュラー ガンリン）の点検	24

## は行

バッテリー	7
バッテリー・バッテリートレイの 取り付け要領	49
バッテリー液の点検	37
フェュエルストレーナの清掃	36
保管	43

## ま行

マフラー	7
マフラーワイヤネットの清掃	33

## や行

やさしい点検・調整	29
要点シンボルマーク	表紙裏

## ら行

リコイルスタータハンドル	7, 13
--------------	-------



ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社  
〒436-0084 静岡県掛川市逆川200-1